

ホームページのアクセス制御 (10)

フレームを使ったホームページは、まずフレームの分割方法を指定し、それぞれのフレームごとに表示するページを指定します。CGIのプログラムでページを表示するには、必要なHTML文やJavaScriptをprint文で出力することによって実際表示するホームページを構成するわけですから、そこにアクセスレベルによる判断を入れることによって、フレーム構造や表示するページを指定することができます。この指定によってフレームの数を4分割にするか、3分割にするかなどが指定でき、レベルによってページの見え方をいろいろと変えることができます。つまり、レベルが合わないから表示できないフレームがあることが、アクセスするユーザ側にはわからなくすることができます。ただし、この方法では、直接CGIのプログラム自体を変更する必要があるため、変更時に余計なことをすることによって、ページ自体がまったく表示できなくなる可能性もあります。それと、フレームを使った(アクセスレベルで表示内容を変更しようとする)ページを新たに作ろうとすると、フレームの番号に応じた分岐も、CGIのプログラム上に追加する必要があります(別にフレーム構造や表示するページのアドレスが違っていなければ普通のページで問題ないのですが)。

今回作成したアクセス制御プログラムの概要は以上の内容です。すでに3ヶ月程度稼動して問題は発生していないのですが、あまり表立っていないところでいくつか改良すべき部分があります。1つには、IDパスワードが、パスワードファイル上はそれぞれのパスワードが暗号化されているため問題ないのですが、端末側で利用しているcookieの場所が、必ず決まったところで普通のテキストファイルなのに今回のプログラムでは保存されているデータが暗号化されていないため、パスワードを知らない人がその端末のcookieのデータを読むことができれば、パスワードがわかってしまうこととなります。これは、最初のパスワード入力時のパスワードチェックプログラムと、リンク先へ行く前のパスワードチェックプログラムが同じサブルーチンを利用しているためで、この点については修正しているところです。また、アクセス制御するページをブラウザのホームページとした場合、ログイン後いろいろなページを回ってホームページに戻ろうとしてブラウザの「ホーム」を利用すると、いちいちパスワード入力のルーチンに戻ってしまうことがあげられます。運用上いろいろな場合があるので、一概にパスワードら入力後のページに戻るようにするのがよいのかどうかは問題ありますが、まずはとりあえず「ホーム」でログイン後のページに戻る(もちろんログインしていればの場合だけ)方法を検討しています。それと、現在CGIプログラム内に組み込んでいるフレーム対応のアクセス制御プログラムを、別の方法で実現できないかを検討(メインのアクセス制御プログラムを変更するのは問題もあるので)しています。

今回作成したアクセス制御プログラムは、CGIということでプロバイダによってはなかなか利用できないものですが、アクセスレベルの導入、ユーザによるパスワード変更(説明していませんが)、フレームの構造まで変化のできる処理などいろいろな特徴が組み込めたものと考えています。複雑なものであれば今後はJavaや.NETによる開発が必要になるものと考えますが、この程度の内容で、アクセス制御部分だけを別プログラムとするのであれば十分に使えるものと考えています。今後の改修が必要なことは十分理解しているつもりです。(連載終了)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 5月24日号

特集 素材を診る

→材料や部品／モジュールといった「素材」が、機器の信頼性の確保を脅かす火種になりつつある。各メーカーはその「素材」の評価に踏み込み始めた。それは、これまでの手法では十分機器の信頼性が保てないことからメーカー自らがその評価を行い始めた。

解説 ホームサーバで家庭に攻め入るMicrosoft社

→これまではメーカー独自の機能追加によってホームサーバを提供してきたが、ここに来てMicrosoftは次期OSでホームサーバに攻め入ろうとしている。

○日経パソコン 5月24日号

特集 すっきり配線の極意

→家庭でネットワークを使おうとするとき問題はLANケーブル。目立たないようにすっきりと配線するテクニックと配線グッズを紹介。

特集 書き込み方DVD講座

→大切な画像をDVDに永久保存したつもりがモザイク大発生ということが起こりうる。それを避けるには、格安ディスクは使わない、最新ドライブを使う、全容量を使い切らない、取り扱いに気をつけるの4原則が大事になる。

○日経バイト 6月号

特集 量子コンピュータの世界

→微細化を進んでいる半導体。極限まで進むことによって、コンピュータの動きは量子力学に支配される。コンピュータのCPUの動きは原始レベルに移りつつある。そこで登場する量子コンピュータは、現実のものとして実体を持つ可能性が出てきた。

ラボ 無線タグはどこまで読めるか

→すでにいろいろなものに貼り付けられている無線タグ。実際どの程度まで読めるのか。金属に貼り付けてみたり、濡らしてみたり、それぞれの方式(2.45GHz帯、13.56GHz帯など)によっていろいろな性格がある。注意しないと読めないものも。

○N+INetwork 7月号

特集 「性悪説」による機密・個人情報漏洩対策

→内部犯行による顧客情報の漏洩事件が続いているが、これらの事件はどうして起こったのか？防ぐ手立ては無いのか？事件の背景を紹介し、いかに内部からの機密・個人情報漏洩を防ぐかの特集。

○ASCI 6月号

特集 CPUを解剖する

→現在CPUにはPentium4だけでも、Prescottコアのもの、Northwoodコアのものがあったり、ノートならPentiumMやEfficeonがあり、AthlonにはAthlon64の64ビットのものやAthlonXPなどがある。これだけ現役のC

PUにもいろいろあるとどこがどう違うのか、機種によってどう選べばいいのか解からなくなってしまう。そこで、基本的なテクノロジーから書くCPUを使った目的別のPCを作っていく中でそれぞれの違いを描き出す。

特集 200X年のCPU

→クロックの競争は一段落しそうだがCPUの起用層は64ビット化、SMT、マルチコア、仮想マシン支援機能、セキュリティ機能など別のところで進化し続けている。これから先の進化の過程を検討する中で、5年後、10年後のCPUの姿を予測する。

○DOS/V magazine 6月15日号

特集 ネット鉄壁セキュリティ

→ネットワークに常時接続しているのが一般的となってきた現在、ウィルスやスパムメールなどの脅威にさらされているといってもいい。これらに徹底的に対処するためにオンラインソフトを利用するノウハウを紹介。